



わが社のインターンシップ

——インターンシップ委員会から——

1. 住友ベークライト株式会社におけるインターンシップの紹介

住友ベークライトでは、化学工学会の学生向けインターンシップを2008年より導入し、夏期を中心に約3週間程度の日程で、化学工学と関わりの深い研究テーマを対象とした実習を実施しております。

2014年度は、静岡と宇都宮の2つの部署で実施しており、静岡地区における実施状況をご紹介します。

実習場所：弊社静岡工場内（藤枝市）

実習部署：コーポレートエンジニアリングセンター

受入人数：2名（博士前期課程1年）

受入期間：2014年8月21日～9月11日（実働16日間）

実習内容：プロセス設計業務

今回の受入部署である、コーポレートエンジニアリングセンターは、弊社における全社的な生産プロセス、設備・装置の設計や実用化等を担当業務としており、これら業務の中で主に以下の2点を理解していただくことに主眼を置き、実習していただきました。

①弊社での研究開発業務の進め方：

目標を定め、スケジュール管理を意識した研究開発

②安全への取り組み姿勢：

取り扱う材料、装置の理解と標準に沿った作業

2. 実習部署担当者の感想

- ・受入時期が8月であり、比較的落ち着いた時期であったため日々の実習に対して密に対処することができた。実習期間を3週間設けたことにより、一連の実務作業（計画－準備－実験－評価－解析）を体験してもらうことができた。
- ・インターンシップ生に弊社の業務を理解してもらうための作業は、若手担当者自身が自らの業務を理解しなおす良い機会となり、弊社にとっての教育の場としても有効であった。

3. インターンシップ生の感想

- ・いかに安全対策が大切であるか学んだ。リスクアセスメント、危険予知、指差呼称などを常日頃から実施し、事故を未然に

防ぐ意識を高めることの重要性を感じた。

- ・業務を効率的に遂行する方法を学んだ。PDCAサイクルを意識的に体系化して実行することで、目的や改善点を明確化でき問題解決への近道となる。企業は社会貢献と利益を両立させるため、常に時間と費用の最適化が求められることを実感した。また、実際にテーマ遂行にあたり生産現場でも化学工学の知識や技術が使われており、重要性を再確認した。

今回実習された2名の学生さんも抱えていた、「自分が企業で働けるのか」、「企業の雰囲気を知りたい」といった不安や希望に対して、インターンシップを通じた企業での実習は正にうってつけの活動であります。また、大学で学ぶ化学工学が、入社後も如何に重要であり、活用されているのかを肌身を持って実感することで、化学工学に対する学びがより一層充実したものになると確信しております。更なるインターンシップ制の拡充を期待しております。



休日には息抜きも



受入担当者と記念撮影



指差呼称の実践



Tatsumi KAWAGUCHI (正会員・上席化学工学技士)
1987年 山形大学大学院工学研究科化学工学専攻修了
現在 住友ベークライト(株)生産技術本部コーポレートエンジニアリングセンター プロセス技術グループ グループ長
連絡先 〒426-0041 静岡県藤枝市高柳2100 番地
E-mail : kawaguti@sumibe.co.jp